２０２２年度事業報告書

自　２０２２年 ４月　　１日
至　２０２３年 ３月 ３１日

＜目的及び事業＞　＊　定款　第３条・第４条より

（目的）
第３条　この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

（事業）
第４条　この法人は、第３条の目的を達成するため、次の事業を行う。
（１）日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付並びに奨学生に対する指導・助言
（２）育英に関する調査研究・情報提供事業
（３）大学生等の人材育成活動助成事業
（４）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

Ⅰ．　事業の状況

１．大学生への奨学金支給事業　＜公益事業 1＞

（１）大学奨学生の採用人数（2022 年 4 月入学）と奨学金給付

2021 年に高校時予約採用した 103 名のうち 84 名（現役合格率 81.6%）および 2020 年予約採用の一浪生 15 名のうち 15 名が、2022 年 4 月に当財団指定大学への入学を果たし、計 99 名が大学奨学生として正式採用となり奨学金給付を開始。
（男性 46 名・女性 53 名／文系 52 名・理系 44 名・芸術系 3 名／国立 73 名・公立 5 名・私立 21 名）

＜大学奨学生数の採用数推移＞
（人数は採用時の数値のため現在時点の学年毎の在学者数とは異なる）

	一般枠	芸術枠	合計
2019 年度採用／大学 4 年生	90 名	2 名	92 名
2020 年度採用／大学 3 年生	88 名		88 名
2021 年度採用／大学 2 年生	89 名		89 名
2022 年度採用／大学 1 年生	99 名		99 名
大学１～４年生合計			368 名

※2020 年度採用の募集から一般枠と芸術枠を統合した。
※2022 年度大学奨学生数は、2018 年度以前の採用 12 名を加え、
2019 年度採用は 2 名が早期卒業大学院進学により総数 378 名。

なお、2022 年度の大学奨学生への奨学金給付金額（入学一時金・受験等助成金を含む）は、3 億 4,662 万円となった。

（２）海外留学・活動支援制度について

奨学生が広い視野を持ち、将来、グローバルに活躍できる人材として成長する一助となることを目的に 2014 年度に支援制度を開始。
2020 年度 4 月より奨学生の留学経験の促進を図るべく制度の改訂を行い、長期留学への支援などを充実させた。また、コロナ禍による海外渡航制限が継続している現状に鑑み、2021 年度よりオンライン留学に対しても支援できるよう制度を拡充した。

2022 年度は海外渡航制限緩和により利用者が延べ 32 名に増加し、費用は 843 万円（オンライン留学 3 名を含む）であった。

（３）大学貸与奨学生について

大学貸与奨学生については、2010 年度に募集・採用が終了し、2015 年度から貸与奨学金の支給はしていない。
2022 年度返還金額は 27,457,600 円で、2023 年 3 月末時点の貸与奨学金残額は 37,451,780 円（返還残奨学生　86 名）となった。

２．大学院生への奨学金給付事業　＜公益事業１＞

（１）大学院奨学生の採用人数（2022 年 4 月入学）と奨学金給付

大学院進学を予定している当財団大学奨学生の中から、奨学生選考委員による書類選考および面接選考を経て、28 名を内定とし、その後の試験の結果、2022 年 4 月に大学院に進学した 19 名を正式採用した（内定者のうち 1 名は早期卒業により 10 月に大学院奨学生となり、2 名は受験失敗、6 名が就職で辞退）。
その結果、2021 年度採用の 26 名とそれ以前の採用者 2 名を合わせて 47 名となった。

なお、2022 年度の大学院奨学生への奨学金給付金額は、4,160 万円となった。

（２）海外留学・活動支援制度

コロナ禍の影響により海外渡航が制限された結果、2022 年度は大学院奨学生の申請は無かった。

３．奨学生の研修・交流会事業　＜公益事業１＞

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、2022 年度はすべて対面とオンラインのハイブリッドによって実施した。これらのセミナーは奨学生の研修と交流を目的とするもので、奨学生相互の研鑽とともに、懇親会による親睦が図られた。

（１）大学院生セミナーの実施
＜実施日＞　2022 年 10 月 1 日(土)、2 日(日)
＜会　場＞　L Stay & Grow 南砂町　　※対面、オンラインのハイブリッド開催
＜講　師＞　株式会社 Hotchkiss 水口克夫氏
　　NPO 法人ソーシャルプロデューサーズ　笠井成樹氏
＜研修テーマ＞「Schola Hotchkiss-思考の筋肉をトレーニングし、問題発見力をつける」
＜目　的＞思考する際の多様な視点を身につけ、課題の再定義を体験し、アイデアの創出力をつける
＜参加者＞大学院生 38 名（対面 35 名、ｵﾝﾗｲﾝ 3 名）

＜セミナー・アンケート結果＞（回答総数：16 名）
［満足度］
・満足　87.5%（14 名）　・やや満足　12.5%（2 名）
［実施方法］
・オンラインがよい＋どちらかといえばオンラインがよい　0.0%（0 名）
・ハイブリッド型がよい　6.3%（1 名）
・オフラインがよい＋どちらかといえばオフラインがよい　93.8%（15 名）

（２）大学３年生セミナーの実施
＜実施日＞　2022 年 5 月 21 日(土)、22 日(日)
＜会　場＞　クロスウェーブ船橋　　※対面、オンラインのハイブリッド開催
＜講　師＞　　我究館 熊谷 智宏氏、田中 杏奈氏
＜研修テーマ＞「自己分析とキャリア研修」
＜目　的＞　大学３年生がこれから迎える就活や今後の進路に向けて自己分析をはじめとする自分自身のキャリアデザインについて考えるセミナー。
＜参加者＞　大学３年生 73 名（対面参加 59 名、ｵﾝﾗｲﾝ参加 14 名）

＜セミナー・アンケート結果＞（回答総数：71 名）
［満足度］
・満足　91.5%（65 名）　・やや満足　7.0%（5 名）　・普通　1.4%（1 名）
［実施方法］
・オンラインがよい＋どちらかといえばオンラインがよい　2.8%（2 名）
・ハイブリッド型がよい　16.9%（12 名）
・オフラインがよい＋どちらかといえばオフラインがよい　80.3%（57 名）

（３）大学２年生セミナーの実施
＜実施日＞　2022 年 9 月 24 日(土)～25 日(日)
＜会　場＞　L Stay & Grow 南砂町　　※対面、オンラインのハイブリッド開催
＜講　師＞　Creative Project Base　倉成英俊　＋　電通 B チーム講師３名
＜研修テーマ＞好きなことを、活かして生きる２
　　－多視点でアイデアを生むクリエーティブ発想 by 電通 B チーム－
＜目　的＞　各人の本業・学業である A 面に対して個人活動である B 面をキーワードに、自分の好きなことを仕事に活かしていく方法を紹介するとともに、多視点で面白いアイデアを生み出す方法を体験する。
＜参加者＞　大学２年生 75 名（対面参加 58 名、オンライン参加 17 名）
＊24 日台風の影響により東海道新幹線が午前中運休となり、17 名が遅刻し 5 名がオンライン参加に切り替えた。

＜セミナー満足度　アンケート結果＞（回答総数：54 名）
［満足度］
・満足　70.4％（38 名）　・やや満足　20.4％（11 名）　・普通　7.4％（4 名）
・やや不満　1.9％（1 名）
［実施方法］
・オンラインがよい＋どちらかといえばオンラインがよい　1.9％（1 名）
・ハイブリッド型がよい　29.6％（16 名）
・オフラインがよい＋どちらかといえばオフラインがよい　68.5％（37 名）

（４）大学１年生セミナーの実施
＜実施日＞　2022 年 9 月 17 日(土)～18 日(日)
＜会　場＞　L Stay & Grow 南砂町　　※対面、オンラインのハイブリッド開催
＜講　師＞　株式会社 MIMIGURI　安斎　勇樹 氏
　　立教大学准教授　館野　泰一 氏
＜研修テーマ＞本質を捉える「問題」の発見方法
　　（実践型”問い”のデザインスキルを磨く）
＜目　的＞　自分の中の何気ない“問い”（問題）に焦点を当てその発見方法、また発見するためのスキルを磨く。良い問題や悪い問題との違いも比較し、グループ毎にプレゼン発表を行う。
＜参加者＞　大学１年生 95 名（対面 78 名、ｵﾝﾗｲﾝ 17 名）

＜セミナー満足度　アンケート結果＞（回答総数：69 名）
［満足度］
・満足　76.8％（53 名）　・やや満足　18.8％（13 名）　・普通　4.3％（3 名）
［実施方法］
・オンラインがよい＋どちらかといえばオンラインがよい　5.8％（4 名）
・ハイブリッド型がよい　33.3％（23 名）
・オフラインがよい＋どちらかといえばオフラインがよい　60.9％（42 名）

（５）「奨学生の集い２０２２」の実施

「奨学生の集い」は全奨学生を対象に、奨学生の研修と相互交流および奨学生と選考委員・事務局との交流を目的に、毎年開催している。内容は前半が講演会、後半は交流会の２部構成となっている。
「奨学生の集い２０２２」は、11 月 12 日(土)に３年ぶりの対面で開催。
参加者は、奨学生、大学関係者、及び奨学生 OB・OG など 365 名が参加して行われた。うち、現役奨学生は 346 名であった。
＜実施日＞　2022 年 11 月 12 日（土）
＜会　場＞　東京ドームホテル
＜講　師＞　昭和女子大学キャリアカレッジ　学院長　熊平　美香氏
＜テーマ＞　ゲーム・チェンジの時代に活躍する“次世代リーダー”に必要な内省力
＜参加者＞　奨学生、大学関係者、及び奨学生 OB・OG など 365 名

（６）修了生交流会の実施

2022 年度卒業・修了の大学奨学生と大学院奨学生を対象とした修了生交流会２０２３を 3 月に帝国ホテルで開催した。
当財団の選考委員など来賓や OB・OG によるメッセ―ジやグループに分かれたコミュニケーションセッションなどで交流を図った。

＜実施日＞　2023 年 3 月 18 日（土）
＜会　場＞　帝国ホテル
＜参加者＞　2022 年度卒業・修了者 96 名、OB・OG 4 名

４．育英に関する調査研究・情報提供事業　＜公益事業 1＞

(1)　会報誌「ＩＫＵＥＩ ＮＥＷＳ」の発行

奨学生や高等教育関係者への有益な情報提供を目的に、会報誌「IKUEI NEWS」を４回（4 月、7 月、10 月、1 月）発行した。
＜配布先＞　奨学生（OB、OG 含む）、大学関係（教育研究者、学長室、学生部、広報部）、全国の図書館、教育研究機関など
＜発行部数＞各号約 4,500 部配布
2022 年度の年間を通じた企画テーマ：「次世代リーダーへのステップアップ」

	発行月	特集テーマ
Vol.98	2022 年 4 月	越境する学び
Vol.99	2022 年 7 月	課外活動へ踏み出そう
Vol.100	2022 年 10 月	変化の時代のキャリアビジョン -IKUEI NEWS100 号記念巻頭見開き-
Vol.101	2023 年 1 月	未来を拓く知と実践

（２）「第４期リーダー育英塾」および「リーダー育英塾カンファレンス２０２２」の オンラインセミナー開催

2018 年より「トランジション（高大社連携）を意識した教育改革」の実践を担う次世代リーダーを育成することを目的にスタートしたワークショップ「リーダー育英塾」は、「第４期リーダー育英塾」を 8 月に 3 年ぶりに合宿方式で開催した。
また、「リーダー育英塾」の成果と高大社連携による人材育成の情報共有の場として、「リーダー育英塾カンファレンス２０２２」を昨年同様オンライン方式にて実施した。

【第４期「リーダー育英塾」概要】
＜日　　程＞　2022 年 8 月 16 日（火）～18 日（木）＜2 泊 3 日の合宿＞
＜会　　場＞　クロス・ウェーブ船橋（千葉県船橋市）
＜対 象 者＞　教育現場を持つ高校または短期大学・大学の関係者
＜参加人数＞　36 名
＜講師・ファシリテーター＞
溝上 慎一（桐蔭学園 理事長、桐蔭横浜大学 教授）、中原 淳（立教大学 経営学部教授）、熊平 美香（昭和女子大学キャリアカレッジ 学院長）、畑野 快（大阪公立大学 准教授）、舘野 泰一（立教大学 准教授）、田中 聡（立教大学 助教）、武田 佳子（桐蔭横浜大学 教授／桐蔭学園トランジションセンター　所長）、登本 洋子（東京学芸大学 准教授）、町支 大祐（帝京大学教職大学院 講師）、大山 牧子（大阪大学 助教）、松井晋作（桐蔭横浜大学 専任講師）、池田 めぐみ（東京大学 助教）※肩書は開催時
※3 月下旬より電通育英会ホームページにて募集（事前課題有）を行い、上記講師・ファシリテーターと事務局による選考会により 72 名の応募者の中から 39 名を選出。その後、3 名が辞退して参加者 36 名となった。
※昨年オンライン開催だった第 3 期生の希望者 14 名を参加者として、「第 4 期リーダー育英塾」の期間中に 1 泊 2 日の合宿形式でフォローアップ・プログラムを開催した。

【「リーダー育英塾カンファレンス２０２２」概要】
＜日　程＞　2022 年 12 月 25 日（日）　＜オンライン方式＞
＜対象者＞　中学校・高等学校・大学等の教職員および教育関係者
（学校教育に関心を持つ企業人事・経営企画担当者も可）
＜参加人数＞　定員 200 名程度、先着順　当日参加者 150 名程度
＜講師＞
溝上 慎一（桐蔭学園 理事長、桐蔭横浜大学 教授）、中原 淳（立教大学 経営学部 教授）、堀田 龍也（東北大学大学院 情報科学研究科・教授／東京学芸大学大学院 教育学研究科・教授）、名倉 勝（CIC Tokyo ゼネラル・マネージャー）、石丸 貴史（福岡工業大学附属城東高等学校 教務主任）、河本 達毅（桐蔭横浜大学 副学長・事務局長）

（３）調査研究

2022 年度は、以下３件の調査研究を実施した。
1. 桐蔭学園（理事長/桐蔭横浜大学教授　溝上慎一氏）と共同で実施するトランジションに関する以下の調査研究
「主に高校生・大学生・若年成人（主に初期キャリア期の 20 代社会人）を対象とした学校から仕事・社会へのトランジション（移行）に関する調査研究」
2. 立教大学（経営学部　中原淳研究室）と共同で実施するトランジションに関する以下の調査研究
「学校から仕事・社会へのトランジションに関する研究推進の一環として若年労働者の初期キャリア形成に関する研究」
3. 3 年に一度（2007 年・2010 年・2013 年・2016 年・2019 年）桐蔭学園 溝上先生監修のもとで実施している「大学生キャリア意識調査（第 6 回）」

＜2022 年度　奨学金以外の事業別　活動支出額＞

奨学生の集い	大学院生・大学 3 年生セミナー	大学 1・2 年生セミナー	修了生交流会	IKUEI NEWS	リーダー育英塾･カンファレンス	調査研究	合計
1,607 万円	812 万円	1,098 万円	732 万円	3,235 万円	847 万円	1,734 万円	10,066 万円

５．大学生等を対象とした人材育成活動助成事業　＜公益事業２＞

（１）2022 年度助成団体の募集・採用・フォローアップ

・募集・採用
2022 年度助成団体は、学生を対象とした人材育成を目的として活動する大学公認団体・民間 NPO 団体を主な対象として、関東（7 都県）・関西（6 府県）において募集を行った結果、44 件の応募があった。助成団体選考委員会により 2022 年 1 月に書類選考、2022 年 2 月に面接選考を行った結果、15 団体を 2022 年度助成団体として採択し、各団体に 100 万円を上限に助成を行った。

・2022 年度助成金支給総額：1,286 万円

・フォローアップ
各団体の助成対象活動に関しては、四半期に一度、助成活動状況について報告書の提出を求め、合わせてオンライン面談を実施することにより、活動計画の変更や助成金の使用状況の確認と共有、助成団体からの相談に敏速に対応することに努めた。
新型コロナ禍の影響による大幅な活動中止や変更は無かったが、最終的に助成活動における当初の助成金使用見込み額の変更等により、1 団体に助成金未使用分の返金対応が発生した。
　助成金（未使用分）返金団体：1 団体
　返金額：45,865 円

2022 年度助成団体（15 団体）

団体名 *助成金申請額/支給額	助成対象活動
アースデイ東京 ＊申請 97.5 万円/支給 94.3 万円	「アースデイ東京」 環境をテーマとするフェスティバル「アースデイ東京」において、環境・社会問題解決に向けたリーダー人材育成を目的とした「全国高校生環境アイデアコンペティション」を開催。
近江楽座とよさと快蔵プロジェクト （滋賀県立大学公認団体） ＊申請 60 万円/支給 60 万円	「とよさとの空き家改修の現場を生かしたまちづくり人材の育成」 とよさと地域のゲストハウス等の改修を行いながら町民や近所の子ども達に向けた木工などのワークショップを開催。
NPO 法人 キャンピズ ＊申請 44 万円/支給 44 万円	「キャンプを通した学生ボランティアスタッフ育成事業」 障がい児者・児童・高齢者と共にユニバーサルキャンプをすることで、ボランティアとして関わる学生が多世代交流の中で様々な学びを得る。
グローバルクリエイティブリーダーズソサエティ （東京大学公認団体） ＊申請 99 万円/支給 87.3 万円	「技術と社会をつなぐデザイン人材の育成」 技術と社会をつなぐデザイン人材の育成を目的としたプレゼンコンペティションを開催し、社会課題解決のための最先端技術の研究や問題解決に取り組む若手人材（大学院生・若手研究者）を見出す。

一般社団法人 グローバル・ネクストリーダーズフォーラム ＊申請 100 万円/支給 100 万円	「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2023 本会議東京大会」 本会議に 10 程度の国や地域から学生や教授を招き、「情報」をテーマに構築された 10 日間に及ぶプログラムを通じ将来のグローバル・リーダーの育成を目指す。
グローバルユース防災サミット実行委員会 ＊申請 100 万円/支給 100 万円	「グローバルユース防災サミット」 国内外で防災に携わる若者が地域的視点と世界的視点の双方に立ち、交流と学習の過程を通じて、各々の災害リスクや防災の現状、課題への理解を深め、「世界的共助」に導く実践に取り組む。
NPO 法人 シャイン・オン・キッズ ＊申請 100 万円/支給 100 万円	「共生社会を実現するための発信力及び課題解決力のある小児がん経験者のリーダーを育てる」 キャンプカレッジにおいて小児がん経験者自身がファシリテーターとなって同じ経験を持つ仲間とともに行いたいことを企画し、次世代の小児がん経験者の牽引役となるような人材を育成する。
湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会 ＊申請 100 万円/支給 100 万円	「平和交流プログラム」 インドネシアで日本語を学ぶ学生を湘南に招聘し、日本人学生と共に広島、湘南においてフィールドワーク等を行う。
NPO 法人 Chance For All ＊申請 100 万円/支給 100 万円	「こどもたちが自分の意志で自由に来ることのできる居場所『駄菓子屋 irodori』運営活動」 学童保育だけではカバーできないこどもたちの居場所としてフリースペース付の駄菓子屋を開設。企画・運営は大学生が担い、地域に大学生がつくる居場所があることによって、こどもたちの心が安らぐ場所を作る。
中央大学ボランティアセンター（中央大学公認団体） ＊申請 100 万円/支給 70.5 万円	「東日本・熊本・真備の経験を新たな被災地に活かす『学生ボランティア世代間継承』の仕組みづくり」 三陸被災地・熊本地震被災地・西日本豪雨災害被災地において、継続的に行ってきた支援活動リソースを新たな被災地支援に転換させていくためアーカイブ化し新たな災害支援に役立てる継承の方法論を確立する。
日中学生会議 ＊申請 30 万円/支給 30 万円	「第 41 回日中学生会議」 「『結実』～架け橋となる存在へ～」との理念のもと、「41 代にもわたって積み上げてきた日中友好への願いが出来上がるよう」にという想いを込めて日中両国合わせて 52 人の学生が大阪、静岡、東京にて、観光やフィールドワークなどを交えて議論を行う。
NPO 法人 Being ALIVE Japan ＊申請 100 万円/支給 100 万円	「スポーツを通じた長期療養児の支援活動を普及するインターン事業」 スポーツを通じて長期治療中のこどもの自立支援、コミュニティの創出をミッションに活動し多くの長期治療中の子供たちの「青春」を支援する機会を増やすために、多分野・多職種と協働し、社会に還元できる人材育成を行う。
認定 NPO 法人 very 50 ＊申請 100 万円/支給 99.8 万円	「Partnership for Asian Leaders： PAL」 日本の大学生を対象にアジア新興国で活躍できるリーダーを増やすべく、東南アジア各国の学生との国際交流・協働プロジェクトを通して、日本、アジアで活躍できる次世代リーダーを育成する。

有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所 ＊申請 100 万円/支給 100 万円	「若者のシビックプライドを育む下京・ソーシャルグッド・レポーターズの育成」 大学生が地域コミュニティの取り組みを体験・参加することができる仕組みを生み出し、希薄化する地域住民と若者の絆を再構築し、シビック・プライド（地域に対する誇り・愛着）をもつ若者を育成する。
NPO 法人 リンクトゥミャンマー ＊申請 100 万円/支給 100 万円	「在日ミャンマー人への定住支援や日本・ミャンマー間の文化交流を通した人材育成事業」 日本の高校生・大学生・大学院生がインターンとして在日ミャンマー人への医療機関や公的機関への同行支援、労働に関係する支援等、定住支援事業に従事し社会での即戦力人材を育成する。

Being ALIVE Japan

グローバルユース防災サミット実行委員会

（２）2023 年度助成団体の募集・採用

2023 年度は、学生を対象とした人材育成を目的として活動する大学公認団体・民間 NPO 団体を主な対象として募集を行った。募集対象地域は 2022 年度までの対象地域である関東地区（東京・千葉・埼玉・神奈川・茨城・栃木・群馬）と関西地区（大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山）に新たに東北地区（青森・岩手・秋田・山形・宮城・福島）を追加した。
「次世代リーダーの育成・リーダーシップ育成」に資する活動に対して、年間 12 団体程度、1 団体あたり上限金額 100 万円までの助成として募集を行った。

・募集時期：2022 年 10 月 19 日（水）～11 月 30 日（水）
・応募団体数：55 団体（関東 29/関西 19/東北 5/募集地域対象外 2）
・選考スケジュールと経過
　2022 年 12 月 16 日（金）財団内事務局 1 次選考を経て、2023 年 2 月 3 日（金）助成団体選考委員会による 2 次選考を行い、16 団体が書類選考を通過した。
　2023 年 2 月 13 日（月）～17 日（金）において各団体に対して 2～3 名の選考委員による面接選考（オンライン開催）を行い、2023 年度助成団体として 15 団体の採用を決定した。１団体については、面接の結果、当財団助成事業の求める人材育成活動との相違が見られたことから、落選とした。
・申請総額（15 団体）：1,345 万円

2023 年度助成団体（15 団体）

iGEM-TOYAKU （東京薬科大学公認団体） ＊助成申請額：45 万円	「理系大学生が始めるサイエンスコミュニケーション活動～合成生物学で科学と社会をつなぐ～」 科学を学ぶ学生として、科学と社会の距離を縮めるために、イベントの企画、開催を通した、科学を伝えるサイエンスコミュニケーション活動。

近江楽座とよさと快蔵 プロジェクト （滋賀県立大学公認団体） ＊2022 年度助成団体 ＊助成申請額：70 万円	「とよさとの空き家改修の現場を生かしたまちづくり人材の育成」 2022 年度助成時に手掛けている物件の改修作業に引き続き取り組む。ワークショップ活動に力を入れ、企画や教育を通して自立し、地域の多くの人たちと協力しながらリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
学生 NGO ALPHA （東京外国語大学公認団体） ＊助成申請額：100 万円	「フィリピン・イロイロ州等における建設活動」 フィリピンの教育支援を目的として、学生メンバーがフィリピンに渡航し、現地の学校側に求められた教室の建設活動及び現地の子供たちを対象に授業を行う。
NPO 法人キリンこども応援団 ＊助成申請額：100 万円	「学生が主体となった不登校の子ども達の居場所創りと宿泊体験事業」 教職員志望の大学生が主担当になって、不登校・ひきこもりの子ども達の居場所創りを実施していく。学生が主体的に取り組みつつ、子ども達の気持ちに寄り添った事業となるようサポートする。
認定 NPO 法人 CLACK ＊助成申請額：100 万円	「IT リーダー育成大学生向けプログラム」 経済的な困窮、ヤングケアラー、不登校などの状態にある高校生にプログラミングとキャリアについて考える機会を提供する講師を大学生が担い、将来 IT リーダーとなる大学生を育成する。
一般社団法人子ども未来塾 ＊助成申請額：100 万円	「社会教育の視野を持つ児童体験活動推進リーダーの育成」 学童期（小中学生）での参加体験継続を経て、ひとつ上の段階である「体験活動グループリーダー」（高校生レベル）と体験活動全般の企画運営全般を行う側となる「育成リーダー」（大学生レベル）を養成する。
NPO 法人里地里山問題研究所 ＊助成申請額：100 万円	「農村課題を人呼び込む資源にする！逆転の発想で地域活性化を図る人材育成のための耕作放棄地ワークキャンプ」 獣害や耕作放棄地の増加、景観や山林の荒廃、伝統行事や祭礼の継続困難等、多様な課題を抱える農村において課題を資源に変換し様々なアイデアで農村に人を呼び込み地域活性化を図る人材育成の為のワークキャンプ。
NPO 法人 SET ＊助成申請額：100 万円	「地域の担い手が育ち続ける好循環を創り出す大学生リーダー育成事業」 岩手県に住む中高生を対象に、県内外混合の大学生チームによる地域社会の課題を解決するワークショップの企画運営及びプロジェクトの伴走支援を行い、持続可能な形で地域社会の担い手となるリーダーを育成する。
認定 NPO 法人底上げ ＊助成申請額：100 万円	「学びのコミュニティを通じた次世代リーダーの育成事業」 震災から 10 年が経過し、東北における次世代リーダー不在が顕在化しており、学びのコミュニティ事業とフィールドワーク事業を実施することで、東北に関わる次世代リーダーの育成と繋がりの強化を目指す。

第39期日韓学生フォーラム ＊助成申請額：80万円	「第39期日韓学生フォーラム」 日本開催のメインフォーラムにおいて、日韓関係からグローバルな社会問題まで幅広い関心層の学生が日本と韓国から一同に会し、英語による学術討論・国際交流を行い、社会に貢献できる人物の育成を目指す。
NPO法人とめタウンネット ＊助成申請額：100万円	「登米・高校生による地域経済研究所プロジェクト」 地元への愛着が未熟なまま登米市を離れる高校生が多いことから、登米市の魅力を活かした地域活性化を牽引する若手リーダーの育成として「登米・高校生による地域経済研究所」を立ち上げ自主的な企画・実施を促す。
日中学生会議実行委員会 ＊2022年度助成団体 ＊助成申請額：50万円	「第42回日中学生会議」 約3週間、中国の５都市を訪問し、討論・フィールドワーク・文化交流を行い、日中両国の学生が共同生活を通して友好を深め相手国及び自国について再考するきっかけとなり日中の懸け橋となる人材を育成する。
NPO法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン ＊助成申請額：100万円	「ハビタット・ユース・リーダー育成プロジェクト」 全国学生宿泊研修を実施し、他者の個性を活かしながら自身の個性を発揮できるリーダーを育成する。この研修を経た学生たちがそれぞれの地域に戻り、地域課題を発見しそれに対するアプローチ方法を企画し実施する。
認定NPO法人まなびと ＊助成申請額：100万円	「外国人支援を通じた、大学生に対するグローバル人材育成事業」 地域に住む外国人に対して、地域の日本人との生の会話を通じて日本語を学びながら人との関わりを得られる日本語教室において活動する大学生が課題と向き合い取り組むことで地域社会に貢献する。
有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所 ＊2022年度助成団体 ＊助成申請額：100万円	「若者のシビックプライドを育む 「下京・ローカルグッド・メンバーズ」の育成 （旧：下京・ソーシャルグッド・レポーターズ）」 「下京・ローカルグッド・レポーターズ（2期生）」の事業を展開し、1年目の参加学生が次の参加学生を育む循環を生み出し、自立的なローカル人材育成制度の創出を目指す。

以上